

長岡京左京三条三坊十町跡・ 鶏冠井清水遺跡

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 二〇一二・一九

長岡京左京三条三坊十町跡・鶏冠井清水遺跡

2013年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

財団法人
京都市埋蔵文化財研究所

長岡京左京三条三坊十町跡・
鶏冠井清水遺跡

2013年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をととして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、建物建設工事に伴う長岡京跡・鶏冠井清水遺跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました多くの関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

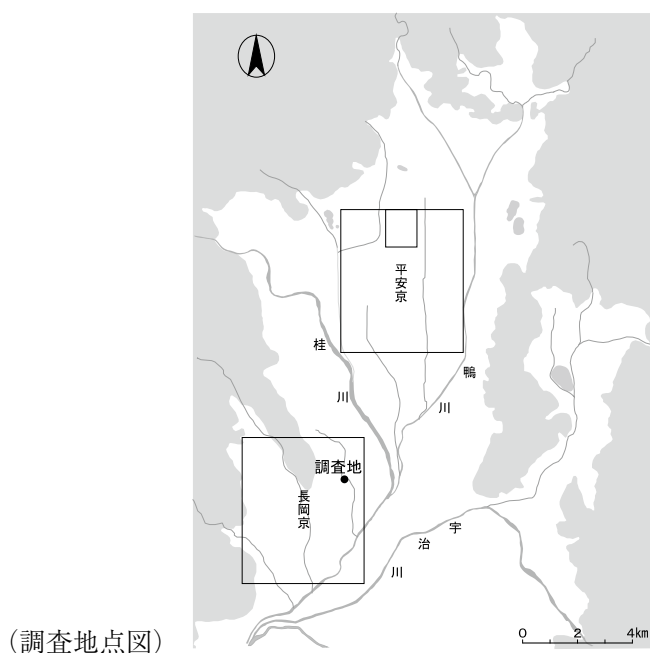
平成25年3月

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所 長 井 上 満 郎

例 言

- | | |
|----------|---|
| 1 遺 跡 名 | 長岡京跡・鶏冠井清水遺跡（文化財保護課番号 12 NG 265）
長岡京左京554次調査（7ANWIR－3地区） |
| 2 調査所在地 | 京都市伏見区久我西出町3－15・3－16・3－174 |
| 3 委 託 者 | 株式会社森川製作所 森川忠夫 |
| 4 調査期間 | 2012年11月19日～2012年12月21日 |
| 5 調査面積 | 400㎡ |
| 6 調査担当者 | 辻 裕司 |
| 7 使用地図 | 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「久我」を参考にし、作成した。 |
| 8 使用測地系 | 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した） |
| 9 使用標高 | T.P.：東京湾平均海面高度 |
| 10 使用土色名 | 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。 |
| 11 遺構番号 | 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。 |
| 12 遺物番号 | 通し番号を付し、写真番号も同一とした。 |
| 13 本書作成 | 辻 裕司 |
| 14 備 考 | 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、資料業務職員および調査業務職員があたった。 |



目 次

1. 調査経過	1
2. 位置と環境	3
3. 遺 構	6
(1) 基本層序	6
(2) 遺構	6
4. 遺 物	10
(1) 遺物の概要	10
(2) 長岡京期の遺物	10
(3) 中世の遺物	11
5. ま と め	12
(1) 条坊路について	12
(2) 祭祀関連遺物について	12

図 版 目 次

図版 1	遺 構	1 調査区全景（西から）
		2 溝10近景（北北西から）
		3 溝11近景（西から）
図版 2	遺 構	1 溝10遺物出土状況（北東から）
		2 溝10南壁断割断面（北から）
		3 溝11西壁断面（東から）
図版 3	遺 構	1 土坑14遺物出土状況（北西から）
		2 土坑14断割状況（南西から）
		3 土坑15遺物出土状況（北西から）
		4 溝10内踏み込み痕検出状況（北から）
図版 4	遺 物	出土遺物

挿 図 目 次

図1	調査位置図（1：5,000）	1
図2	調査区配置図（1：1,000）	2
図3	調査前全景（南から）	2
図4	作業風景（南東から）	2
図5	既往調査地点配置図（1：4,000）	4
図6	調査区断面図（1：100）	7
図7	調査区平面図（1：200）	8
図8	溝10北半平面図（1：50）	9
図9	土坑14・15実測図（1：40）	9
図10	出土遺物実測図（1：4）	11

表 目 次

表1	遺構概要表	6
表2	遺物概要表	10

長岡京左京三条三坊十町跡・鶏冠井清水遺跡

1. 調査経過

調査地点は、長岡京左京三条三坊九・十町ならびに東三坊坊間東小路・三条条間北小路と縄文時代から古墳時代の複合遺跡である鶏冠井清水遺跡に相当する。

当該地に森川製作所建設工事が計画され、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下「文化財保護課」という。）により対象地内で試掘調査が実施された。試掘調査の結果、東三坊坊間東小路・三条条間北小路に相当する溝が検出された。それら試掘調査成果を基に、文化財保護課の指導により当研究所が発掘調査を実施することになった。長岡京跡における調査次数は、左京554次調査（7ANWIR－3地区）である。

調査対象地の現況は、耕作土層上に厚く盛土された更地である。

調査地点は、長岡京の北東部に位置し、周辺ではいくつかの発掘調査が実施されている。このうち、当地の西隣で行った西羽東師川の調査では三条条間北小路が検出されている。本調査地で文化財保護課の試掘調査により検出された東西方向の溝が、前述の同小路の東延長に相当する。したがって、長岡京の条坊路の検出例を新たに提示することができる。また、十町の宅地内の様相も把握可能であろう。さらに、鶏冠井清水町遺跡の実態を補強する成果を得ることも、今回の調査目的とした。

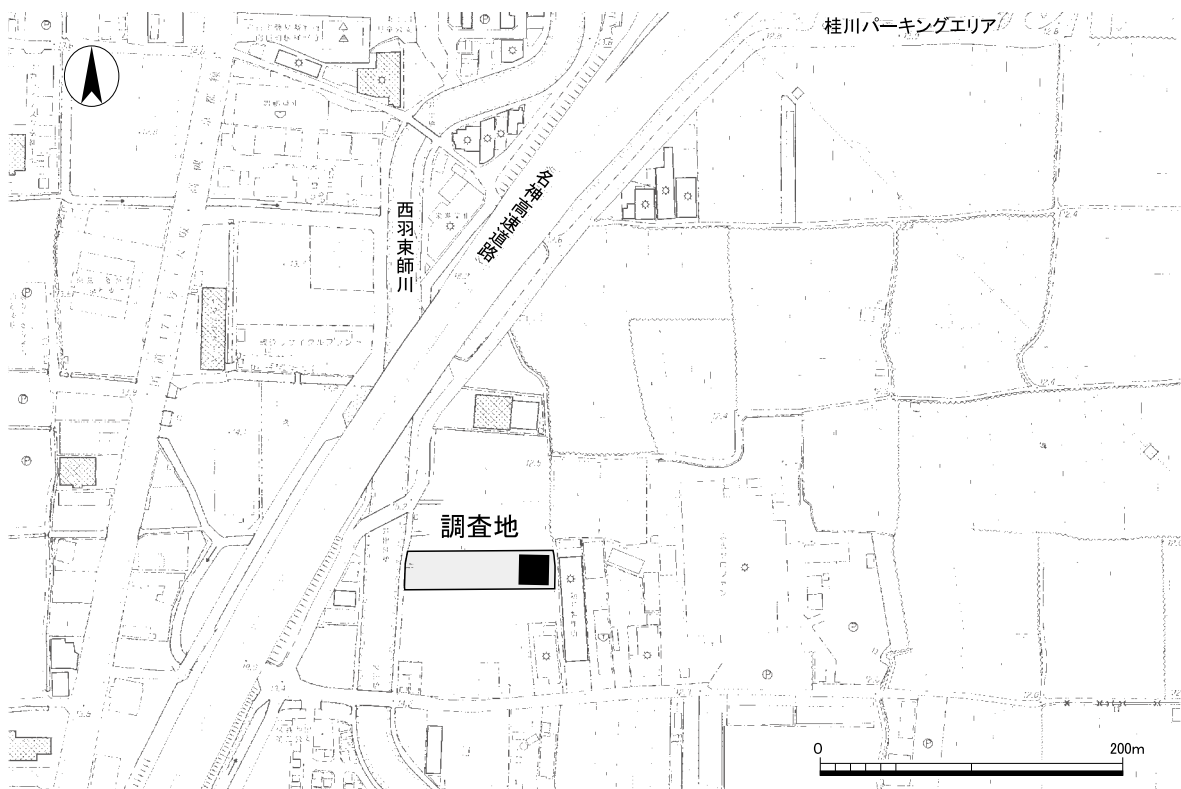


図1 調査位置図（1：5,000）

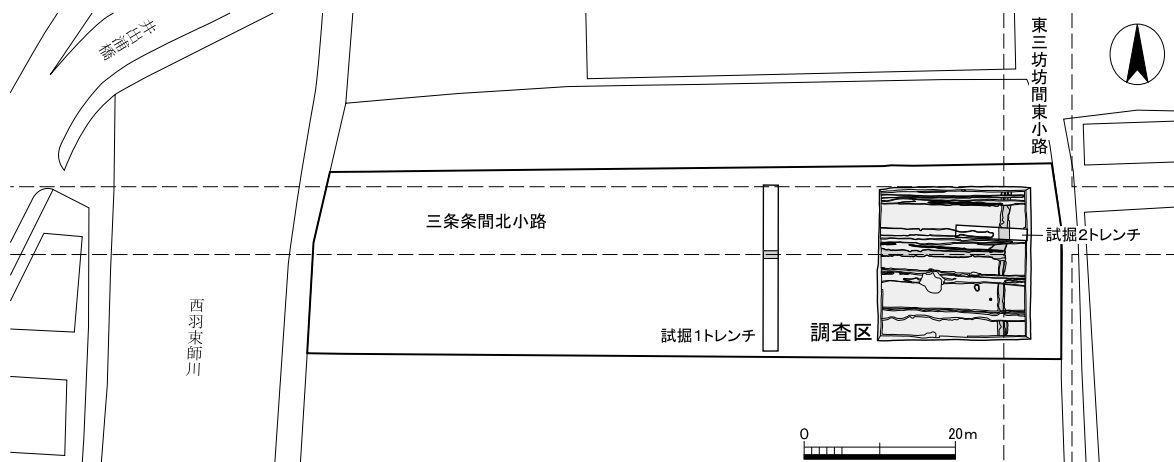


図2 調査区配置図（1：1,000）

発掘調査は平成24年11月19日から開始した。まず、仮囲いなど仮設施設を設置した。その後、調査対象地の調査区設定および基準点測量を行った。調査区設定後、重機による掘削を開始し、その後、人力による調査を進めた。調査の進捗に従い、検出遺構ならびに調査区については、平面実測・断面実測などで記録した。写真撮影については、12月12日に調査区全景写真撮影、12月17日には主要な個別近景写真撮影を行った。また、調査の過程についても必要に応じ近景写真撮影を行い記録した。調査終了後は、重機による埋め戻しを行い、平成24年12月28日にすべての調査を終了した。

また、調査の過程で、長岡京期に相当する遺構などから出土した獣骨、木製品、種実、樹木根、埋土は、当研究所にて分析を行った。

発掘調査の進捗に従い、文化財保護課による指導を受けた。調査開始直後の11月20日の調査区域ならびに重機掘削状況の確認を始め、調査の進展に伴い、12月13日には、調査成果の確認と指導を受けた。

なお、今回の調査では、鶏冠井清水遺跡に関連する遺構・遺物は出土していない。したがって、位置と環境では、当該遺跡については省き、長岡京期の遺跡について述べた。



図3 調査前全景（南から）



図4 作業風景（南東から）

2. 位置と環境

調査地点は、長岡京の北東部に位置し、周辺ではいくつかの発掘調査などが実施されている。

調査地点の西側には羽東師川が南流し、名神高速道路が北東－南西方向に延長する。調査地点東側では、工場建設に伴う発掘調査が1984年に実施された。また、調査地点西側では、西羽東師川改修工事に伴い1980年から継続的に発掘調査が実施されている。また、調査地点北側では、財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターにより、1993年から名神高速道路桂川パーキングエリア建設に伴う発掘調査が実施されている。これらの調査では、縄文時代から古墳時代・長岡京期・中世の遺構・遺物などが検出されるなど、多くの成果が挙げられている。ここでは、長岡京期の遺構を中心にして主要な調査の概況を述べる¹⁾ (図5)。

左京二条三坊・四坊 三坊十二町・十四～十六町の発掘調査²⁾ (L 139次) では、二条条間北小路・二条条間大路が検出された。二条条間北小路は両側溝と南内溝があり、側溝心々距離は9.3m。南側溝と内溝間には暗渠と考えられる溝が造られる。二条条間大路は両側溝と北内溝・南町内東西柵があり、側溝心々距離は24.8m。各路間の十五町北側では掘立柱建物が検出された。二条条間大路北側溝から人面土器、南側溝から斎串が出土した。

三坊十一町の発掘調査³⁾ (L 165次) では、東西溝が数条検出され、二条条間南小路に関連した溝の可能性が指摘された。

三坊十一町・十四町の発掘調査⁴⁾ (L 177次) では、東三坊坊間東小路が検出された。東三坊坊間東小路は東側溝と路面敷きがある。

三坊十二町・十四町の発掘調査⁵⁾ (L 267次) では、東三坊坊間東小路・二条条間南小路、二条大路が検出された。東三坊坊間東小路・二条条間南小路はいずれも両側溝を伴う。東三坊坊間東小路・二条条間南小路の側溝心々距離は、いずれも9.5m。十二町北東部では掘立柱建物・井戸が検出された。井戸や溝からは多量の土器類や土馬が出土した。二条大路は北側溝を検出した。

三坊十四～十六町、四坊一～三町・六～八町の発掘調査⁶⁾ (L 303・314・315・329・330・331～334・336・337・361～365・399次、) では、二条条間北小路・二条条間大路・二条条間南小路・東三坊大路・東四坊坊間西小路が検出された。三坊十四町・十五町、四坊二町・三町・六町・七町内では掘立柱建物・井戸などが検出され、宅地内の状況が明らかとなった。道路は両側溝があり、各々側溝心々距離は、二条条間北小路が約9m、二条条間大路が24.65～25.15m、二条条間南小路が9.3m、東三坊大路が24.5～24.65m、東四坊坊間西小路が9.32～8.72mであった。

左京三条三坊・四坊 三坊九～十一町・十四町、四坊三町・四町の発掘調査⁷⁾ (L 123次) では、東三坊大路・三条条間南小路が検出された。東三坊大路は西側溝がある。三条条間南小路は南側溝があり、南側溝の南側、四町内では掘立柱建物が検出された。また、三条条間北小路推定地では2条の東西溝が検出された。

三坊十町・十一町・十四町、四坊三町・四町の発掘調査⁸⁾ (L 104次) では、東三坊大路・三条条間南小路が検出された。東三坊大路は両側溝があり、側溝心々距離は24.8m。三条条間南小路は両

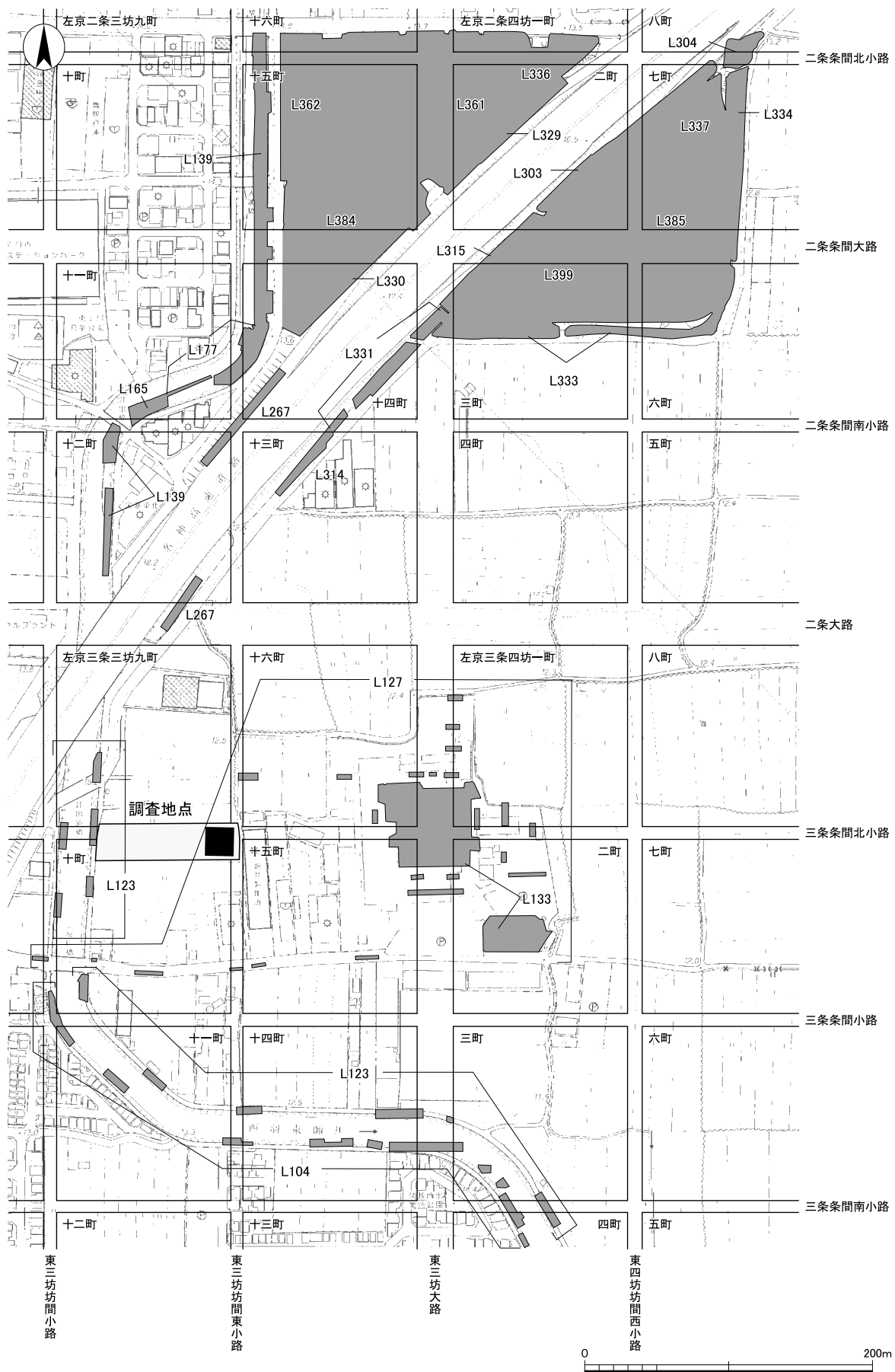


図5 既往調査地点配置図（1：4,000）

側溝があり、側溝心々距離は9.4m。南側溝の南側、四町内では掘立柱建物が検出された。

三坊十五町・十六町、四坊一町・二町の発掘調査⁹⁾(L 133次)では、東三坊大路が検出されたが、三条条間北小路は未検出である。東三坊大路は両側溝があり、側溝心々距離は24.3m。十四町南東部では掘立柱建物3棟、一町南西部では柵が検出された。二町北西部では掘立柱建物1棟、中央部では東西溝・南北溝・掘立柱建物2棟・井戸・柵などが検出されている。

註

- 1) 図5の作図に当たっては、下記のものを参考にした。また、長岡京の条坊に関連する呼称は、新呼称とした。「長岡京条坊復原図」『平成9年度 財団法人向日市埋蔵文化財センター年報 都城10』付図 財団法人向日市埋蔵文化財センター 1999年
- 2) L 139次、久世康博・上村和直「長岡京左京一条三坊・二条三坊」『昭和60年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1988年
- 3) L 165次、丸川義広・上村和直「長岡京左京一条三坊・二条三坊」『昭和61年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1986年
- 4) L 177次、百瀬正恒・丸川義広・長宗繁一「長岡京左京二条三坊」『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1987年
- 5) L 267次、「名神高速道路関係遺跡発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報』第51冊 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1992年
- 6) L 303・314・315・329・330・331～334・336・337・361～365・399次、『長岡京跡左京二条三・四坊・東土川遺跡』京都府遺跡調査報告書 第28冊 2000年
- 7) L 123次、鈴木廣司・長宗繁一「長岡京左京二・三条三・四坊」『昭和59年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1985年
- 8) L 104次、鈴木廣司・長宗繁一「左京三条三・四坊」『昭和58年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1984年
- 9) L 133次、鈴木廣司・長宗繁一「長岡京左京二条三・四坊」『昭和60年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1988年

3. 遺 構

(1) 基本層序

調査区の基本層序は、現代盛土が厚さ約0.7m、近現代の耕作土層が厚さ約0.3m、中世の耕作土層が厚さ約0.3mあり、中世の耕作土層下は、無遺物層（地山）となる。無遺物層は、細砂・粗砂を含む黒褐色シルト層が厚さ約0.1m堆積し、下層には、細砂・粗砂を含む暗灰黄色シルト層が堆積する。暗灰黄色シルト層を含む無遺物層の堆積状況は、調査区中央部の攪乱坑の断面観察から、暗灰黄色シルト層が厚さ約0.5m、細砂から細礫を含むオリーブ灰色シルト層が厚さ約0.4m堆積し、暗褐色砂礫層となる。黒褐色シルト層は、踏み込みなどにより下層の暗灰黄シルト層との土層境界は混然とした状態を呈する。踏み込みの痕跡は、調査区ほぼ全面に分布するが、東三坊坊間東小路路面上や三条条間北小路路面上に比較的多く、十町内はやや少ない傾向にある。また、踏み込痕跡の多くは、黒褐色シルト層が入り込むが、中世の耕作土層の混入したものもあり、中世の耕作土層上から踏み込んだものが多い。遺構は、黒褐色シルト層上面で検出した。

(2) 遺構

遺構は、無遺物層上面で検出した。遺構総数は17基あり、長岡京期および当該時期と考えられる遺構は7基、中世の遺構は10基ある。

長岡京期の遺構

長岡京期と考えられる遺構には、東三坊坊間東小路、三条条間北小路、土坑がある。

溝10（東三坊坊間東小路西側溝）（図版1～3、図8） 調査区東側で南北方向を示す溝10を検出した。東三坊坊間東小路西側溝の想定位置に当たる。調査区内では約20m分検出し、南北は調査区外へさらに延長する。溝10の東肩口以東が同小路路面に相当するが、道路敷などの施設は未検出である。延長方向は南北方向であるが、次に示す三条条間北小路南側溝と想定できる溝11を境に北と南で溝の方位は異なる。溝11から南ではほぼ座標北を示すのに対し、溝11から北では座標北に対し東へ約3°振れる。検出面での規模は、幅1.5m前後、深さ0.2m前後ある。底面の標高差は、南北端で約0.15mあり、南へ下がる。埋土は、黒褐色シルト層が堆積するが、地山の暗灰黄色シルト層が踏み込みなどで混然とした状態の箇所もある。また、埋土の中位には、ラミナが薄く堆積する。遺物は、三条条間北小路との合流地点から北の溝底面に接した箇所から土師器・須恵器、土製品、木製品、獣骨、植物種実などが出土した。

表1 遺構概要表

時 代	遺 構	備 考
長岡京期	東三坊坊間東小路、三条条間北小路、土坑	
鎌倉時代～室町時代	耕作溝	

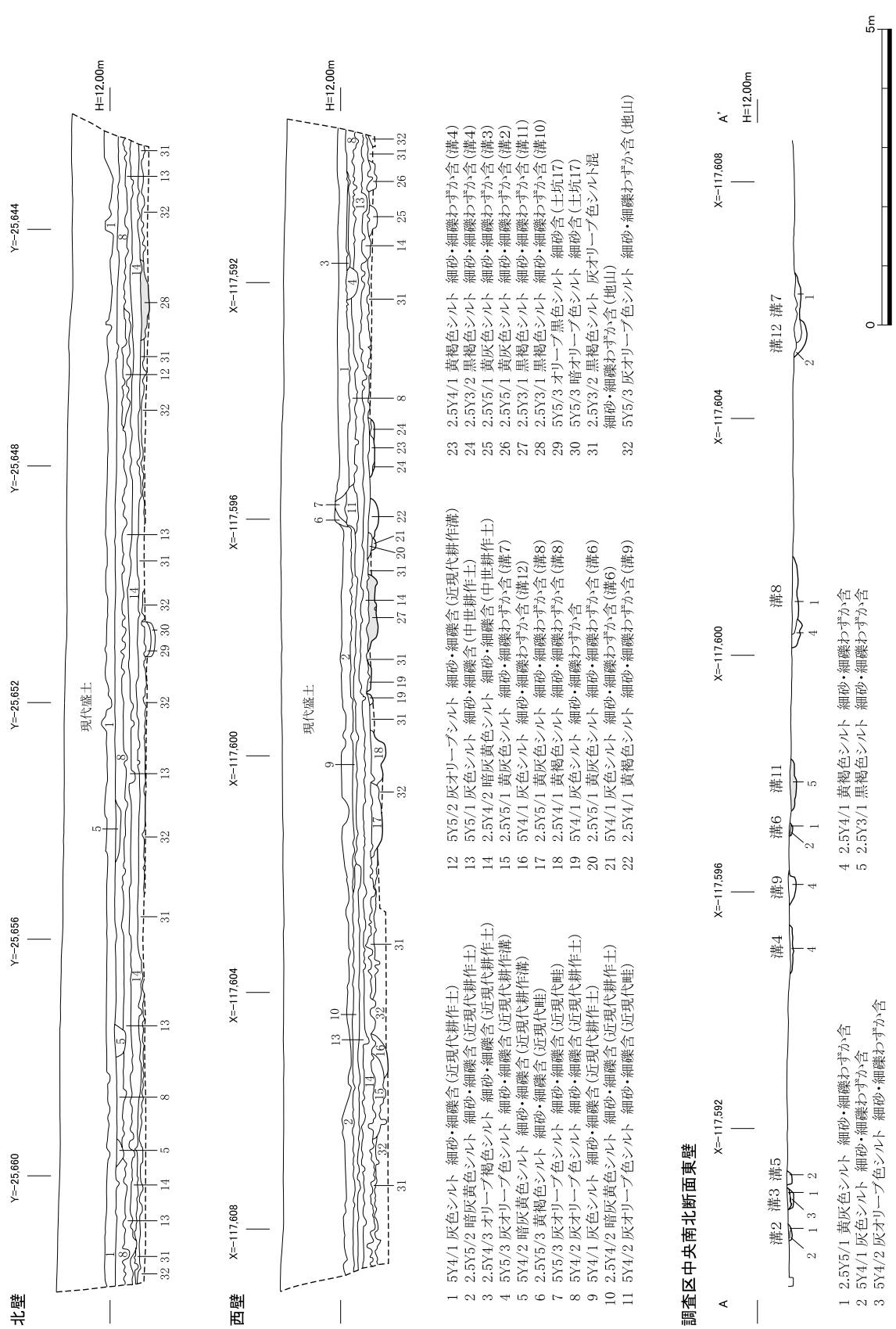


図6 調査区断面図 (1 : 100)

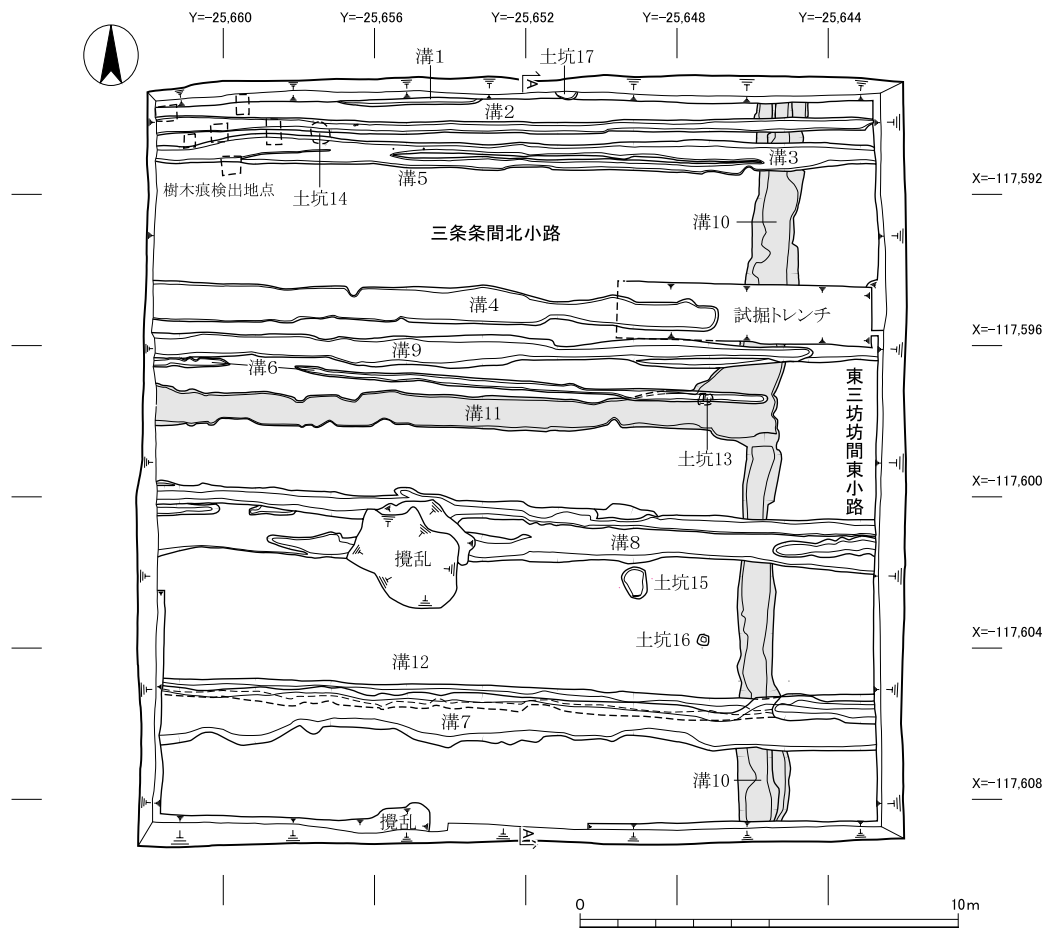


図7 調査区平面図（1：200）

溝11（三三条間北小路南側溝）（図版1・2） 南側溝の想定位置で東西方向を示す溝11を検出した。西は調査区外へさらに延長し、東は溝10にほぼ直交して連続する。調査区内では約17m分検出した。延長方向は、ほぼ座標東を示すが、わずかに南へ振れる。検出面での規模は、幅0.8～1.3m、深さは0.1～0.2mあるが、溝10との合流箇所に向かって肩口は広がり、溝幅は約2.5mとなる。底面の標高差は、東西端で約0.05mあり、溝10との合流地点へ向かって下がる。埋土は、黄褐色シルト層が堆積する。遺物は、土師器・須恵器の小片がわずかに出土したほか、西端の底面付近から獣骨が出土した。

土坑13 溝10と溝11が合流する地点の溝11側の溝底面で検出した小土坑である。平面形は東西にやや長い楕円形を呈し、検出面での規模は、径0.28m、深さ0.22mある。埋土は黒褐色シルト層が堆積する。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、形状からは人為的な遺構と考えられるが、周辺では同様の形状を示す遺構は未検出である。遺物は出土していない。

土坑14（図版3、図9） 調査区北西部で検出した土坑である。平面形は楕円形を呈し、主軸方向は北北西－南南東を示す。検出面での規模は、長径0.63m、短径0.54m、深さ0.37mある。埋土は、上層が褐灰色シルト層、中・下層には粘性を帯びた灰オリーブ色シルト層・オリーブ黒色シルト層が堆積し、上層以外のシルト層には砂は全く含まない。上層から獣骨、植物種実のほか板状・棒状木製品が複数出土した。土器類は出土していない。中・下層から土壌サンプルを採取した。

土坑15(図版3、図9) 調査区南東部で検出した土坑である。平面形は楕円形を呈し、主軸方向は概して南北方向を示す。長径約0.85m、深さ0.07mある。埋土は、灰オリーブ色粘土層が堆積する。南肩口付近の底面で、両端が焦げた長さ0.2mある棒状木製品が出土した。土器類は出土していない。

土坑16 調査区南東部で検出した小土坑である。平面形は方形を呈し、検出面での規模は、一辺0.3m、深さ0.28mある。埋土は、黒褐色シルト層が堆積する。遺物は出土していない。

土坑17 調査区北壁沿いで検出した土坑で、南肩口がわずかに遺存していた。北肩口は調査区外へ広がる。平面形は東西に長い楕円形を呈すると考えられ、現存規模は、径約0.7m、深さ0.23mある。埋土は、オリーブ黒色シルト層、暗オリーブ色シルトが堆積する。土器類は出土していないが、板状・棒状木製品が複数出土した。また、植物種実が出土している。下層から土壌サンプルを採取した。

植生痕 調査区北西隅で樹木株痕を6箇所検出した。大半が根の部位である。樹種同定を行ったが、樹幹がなく樹種は不明である。

中世の遺構

耕作溝 9条検出した。東西は調査区外へ延長し、延長方向は、溝1～3・5・9はほぼ座標東を示すのに対し、溝4は南へ約1°、溝6～8・12は南へ約2～3°振れる。検出面での規模は、幅0.22～1.45m、深さ0.08～0.28mあるが、溝7は幅1.45m、溝8は幅1.3mあり、溝7・8間の幅は約3.5mある。埋土は、灰色～黄灰色系のシルト層で細砂・細礫を含む。溝7の底面付近からは、瓦器の小片がわずかに出土し、他の溝からも土師器小片などがわずかに出土した。また、溝2～4・6の底面付近から植物種実が出土した。

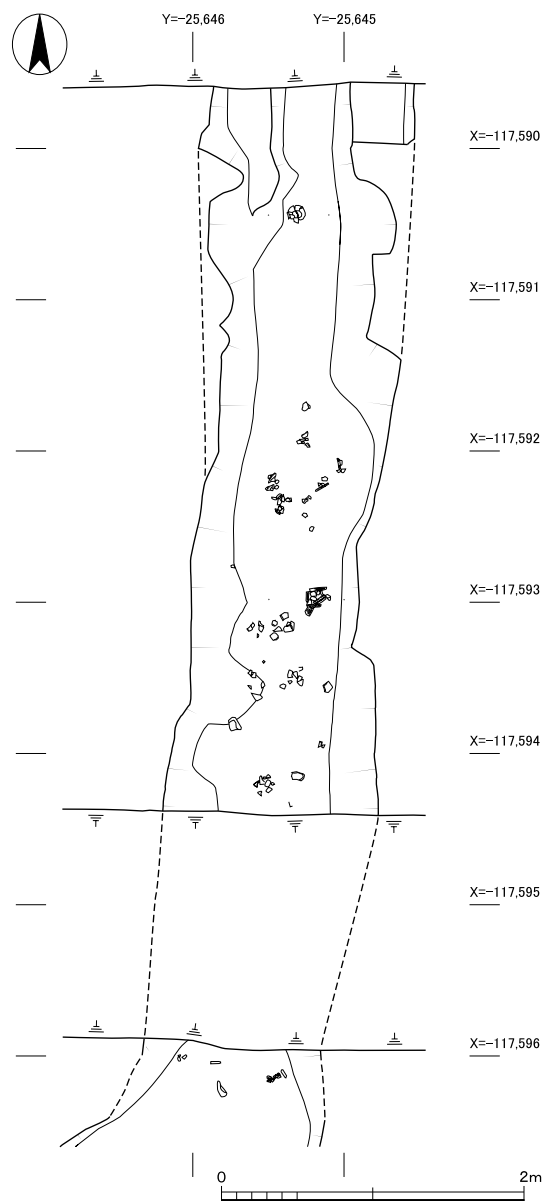


図8 溝10北半平面図(1:50)

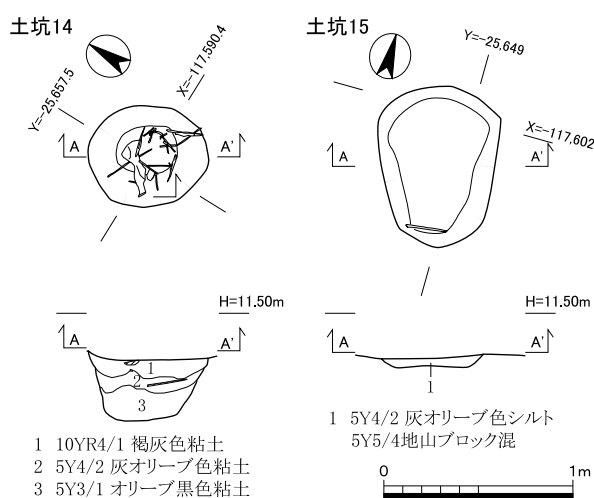


図9 土坑14・15実測図(1:40)

4. 遺 物

(1) 遺物の概要

遺物は、遺物コンテナで4箱出土した。遺物内容としては、土器・瓦類が2箱、木製品が1箱、自然遺物が1箱の合計4箱ある。時代別では、長岡京期、中世の2時期がある。

(2) 長岡京期の遺物（図版4、図10）

土器類には土師器・須恵器・黒色土器、土製品、瓦、木製品、自然遺物がある。土器類や瓦類は溝10のほか、中世の溝からも出土している。

土師器では、椀・皿・鉢がある。1は椀Aである。底部は欠損する。口縁部は内湾ぎみに立ち上がる。口縁端部は丸くおさめる。内面は口縁部・底部ともナデ、外面は口縁部から底面にかけてヘラケズリを行う。口径12.2cm、器高3.2cm。2は皿Aである。平坦な底部から口縁部は斜め上方へ立ち上がり、口縁端部は丸くおさめる。内面は口縁部・底部ともナデ、外面は口縁部から底面全面にヘラケズリを行う。口径15.6cm、器高2.5cm。3～6は、祭祀用の土器で、壺と呼称される器形であるが、形態的に鉢として分類した。いわゆる人面墨書土器であるが、墨描きはない。形態からB類とC類がある。器面調整は共通して、口縁部から体部内面はナデ、体部外面はオサエを行う。3は、C類である。平坦な底部から体部は短く斜め上方に立ち上がり、口縁部は外傾する。口縁端部は丸くおさめる。体部外面にはやや凹凸が残る。口径11.7cm、器高3.2cm。4～6は、B類である。4は底部を欠損する。体部は斜め上方に立ち上がり、口縁部はやや外反する。口縁端部は上方にややつまみ上げ、丸くおさめる。体部外面にはやや凹凸が残る。口径13.0cm、残存器高4.4cm。5は底部を欠損する。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部はやや外反する。口縁端部は上方につまみ上げ、丸くおさめる。口径15.1cm、残存器高4.7cm。6は底部を欠損する。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は外反する。口縁端部は上方にややつまみ上げ、丸くおさめる。口径15.3cm、残存器高3.9cm。1～6は溝10出土。

須恵器では杯B蓋・壺・甕など、黒色土器では椀Aがあるが、小片で図示できるものはない。

土製品では、土馬（7）がある。粘土板から頸部・尾部・四肢を作り出し、腹側に折り曲げて成

表2 遺物概要表

時 代	内 容	コンテナ 箱数	Aランク点数	Bランク 箱数	Cランク 箱数
長岡京期	土師器、須恵器、黒色土器、土製品、瓦、木製品、獣骨、種実	3 箱	土師器6点、土馬1点、木製品14点	0 箱	3 箱
中 世	土師器、瓦器	0 箱		0 箱	0 箱
合 計		4 箱	21点（1箱）	0 箱	3 箱

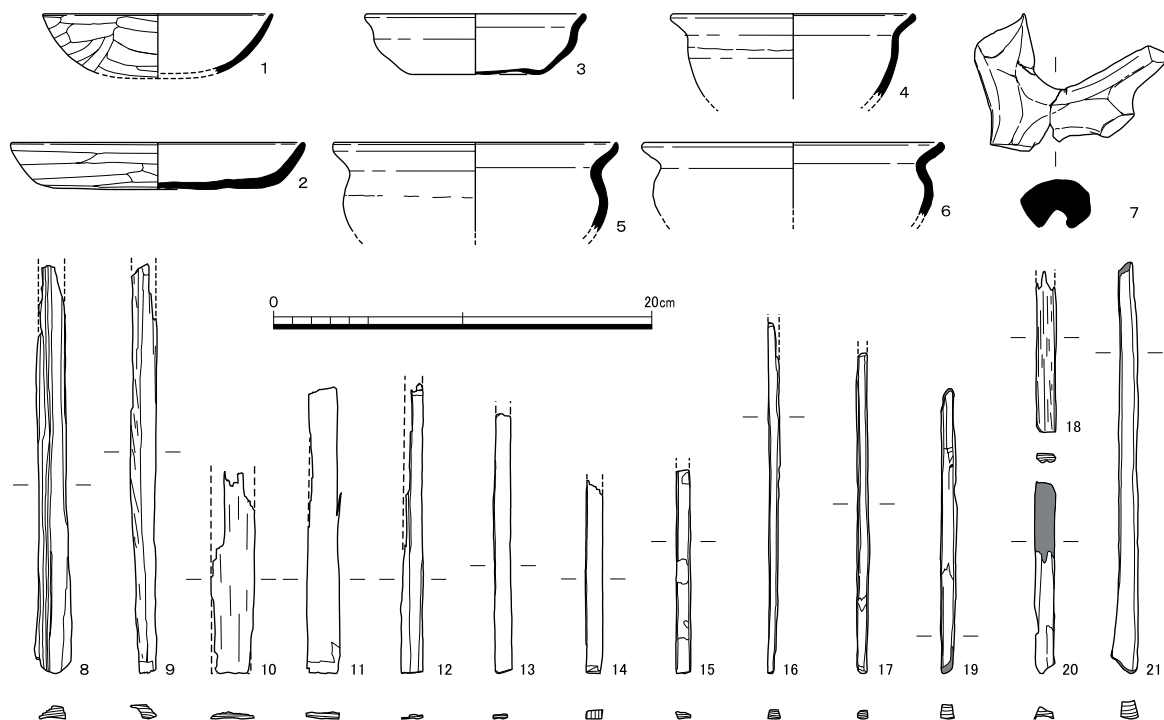


図10 出土遺物実測図（1：4）

形する。頸部上端から頭部・尾部・四肢は欠損する。器面はオサエやナデで成形するが、胴部側縁と頸部側縁は、軽いヘラケズリないし板ナデ調整する。また、背と頸部間は直交する強いナデで境界を際立たせる。残存規模は、幅10.1cm、高さ7.3cm、胴部幅3.7cm、胴部高2.5cm。溝10出土。

瓦には、丸瓦・平瓦があるが、いずれも小片で図示できない。中世の耕作溝から4点出土した。

木製品では、曲物・板状製品・棒状製品・付木（薪）がある。腐食が進み、器面観察は困難である。曲物は、細片で図示できない。綴じ目や樺皮などが観察できる。溝10出土。板状・棒状製品は、溝10、土坑14（8～15）、土坑15（18・20）、土坑17（21）から出土したが、溝10出土品は細片で腐食が進み図示していない。また、図示のものも完形は少ない。8～15・18は、板状製品である。長さ8.4～21.2cm、幅0.8～2.0cm。16・17は棒状製品で、長さ18.6cm・10.7cm、幅0.7cm。19～21は一端ないし両端が焦げたもので、付木か薪と考えられるものである。

自然遺物では、植物種実・樹木がある。植物種実ではウリがある。土坑17から、植物種実（ウリ類）また、植物種実（モモ）などが出土した。溝10出土の獣骨は、ウシあるいはウマで、部位は歯および寛骨と考えられるものがある。土坑14出土の獣骨は、ウマで部位は寛骨である。土坑14・17下層の土壌については、寄生虫卵の分析を行ったが、寄生虫卵は検出されなかった。

（3）中世の遺物

土器類には土師器・瓦器があるが小片で図示できるものはない。その他、自然遺物がある。

土師器では皿がある。瓦器では、椀・鍋がある。鎌倉時代と考えられる。

自然遺物では、植物種実がある。溝2～4西半の東西約2mの範囲の底面付近からウリ類がまをもって出土したほか、溝2からはウメ、溝6からはモモが出土している。

5. ま と め

以上、今回の発掘調査における概要を示した。調査では、小路の側溝を検出し、小路の交差状況も明らかにすることができた。次に、周辺の調査成果も含め、調査成果をまとめる。

(1) 条坊路について

東西路である三条条間北小路については、推定位置で南側溝（溝11）を検出した。調査地点の西側で行われたL 123次調査では、推定位置で三条条間北小路の南北両側溝が検出されており、側溝心々間距離は8.8mある。この両側溝心の数値を世界測地系の座標数値で示せば、 $X = -117,592.185$ となり、溝11は、同小路の南側溝位置から約1 m南に位置することになる。

一方、向日市の資料¹⁾による三条条間北小路南側溝の位置は、座標数値で示せば、 $X = -117,597.965$ となり、溝11の南肩口の位置に相当する。北側溝の位置を座標数値で示せば、 $X = -117,589.085$ となり、調査区北壁際に位置する。

2つの事例を踏まえれば、溝11は、三条条間北小路南側溝であると想定することができる。したがって、溝11から北側が路面であると考えられる。

南北路である東三坊坊間東小路については、推定位置で西側溝（溝10）を検出した。西側溝は九町側から十町側まで連続している。三条条間北小路の南側溝（溝11）は、この溝に合流して止まり、南北道路を越えて東に連続していない。したがって、当交差点では南北側溝を介して雨水を流していたことを示している。

また、調査地点の北側で行われたL 177・267次調査では東三坊坊間東小路が推定位置で検出され、調査地点東側で行われたL 133次調査では東三坊大路が推定位置で検出されている。このことから、当地域では、南北条坊路が計画のとおり敷設されたことについて、改めて補強することができた。

(2) 祭祀関連遺物について

今回の調査では、祭祀に関連した遺物が出土した。以下に、まとめておく。

祭祀に使用したと考えられる遺物には、土師器鉢と土馬がある。また、伴出した土師器や須恵器も祭祀に使用された可能性がある。

土師器鉢には、大型のB類が3点、小型のC類が1点出土した。いずれも顔などは墨で描かれていないが、形態・製作技法から祭祀用の器である。これまでに長岡京で出土した人面土器では、墨で顔が描かれたものは約4割程度と少なく、ここでは描かれていないものだけを使用したと推定できる。²⁾土馬は1点出土し、大きさもこれまで長岡京で出土したものと近似する。

これらの祭祀具は、東三坊坊間東小路と三条条間北小路が交差する地点の東三坊坊間東小路西側溝（溝10）内から出土した。周辺の状況が不明なので判然としないが、交差点で祭祀が実施され、終了後に道路側溝に投棄されたものと推定できる。遺物は量が少なく種類も少ないことから単発的

な祭祀であったことが想定できる。

調査地北側のL 139調査では、二条条間大路・東三坊坊間東小路交差点の東側、二条条間大路両側溝で人面土器・斎串が出土し、ここでも交差点近くで祭祀が実施されていたことが確認できた。長岡京内のこれまでの調査で、条坊道路で祭祀が実施された例は多く、その内交差点付近を選んで行ったものが多いことが指摘³⁾できる。今回の発見もこれを補強する例としてあげられよう。

註

- 1) 「長岡京条坊復原図」『平成9年度 財団法人向日市埋蔵文化財センター年報 都城10』付図 財団法人向日市埋蔵文化財センター 1999年
- 2) 上村和直「都城出土人面土器に関する二、三の問題」『文化財学論集』文化財学論集刊行会 1994年
- 3) 上村和直「長岡京における祭祀」『堅田直先生古希記念論文集』堅田直先生古希記念論文集刊行会 1997年

図 版



1 調査区全景（西から）



2 溝10近景（北北西から）



3 溝11近景（西から）



1 溝10遺物出土状況（北東から）



2 溝10南壁断割断面（北から）



3 溝11西壁断面（東から）



1 土坑14遺物出土状況（北西から）



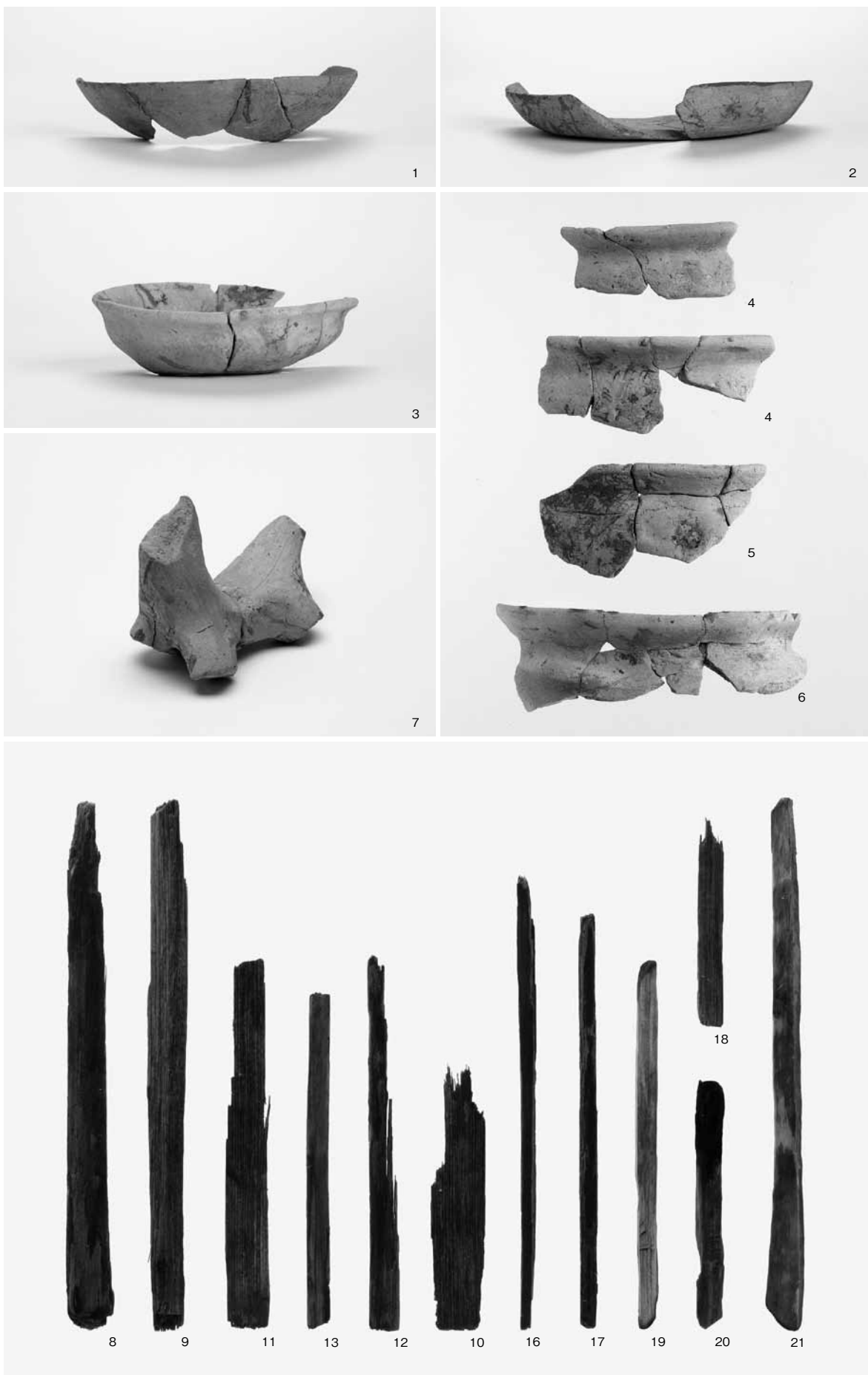
2 土坑14断割状況（南西から）



3 土坑15遺物出土状況（北西から）



4 溝10内踏み込み痕検出状況（北から）



出土遺物

報 告 書 抄 録

ふ り が な	ながおかきょうさきょうさんじょうさんぼうじゅっちょうあと・かいできよみずいせき							
書 名	長岡京左京三条三坊十町跡・鶏冠井清水遺跡							
シ リ ー ズ 名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2 0 1 2－1 9							
編 著 者 名	辻 裕司							
編 集 機 関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所 在 地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発 行 所	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発 行 年 月 日	西暦2013年 3 月31日							
ふ り が な 所収遺跡名	ふ り が な 所 在 地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ながおかきょうあと 長岡京跡 かいできよみずいせき 鶏冠井清水遺跡	きょうとしふしみく 京都市伏見区 こがにしでちょう 久我西出町 3-15・3-16・ 3-174	26100	3 1204	34度 56分 23秒	135度 43分 09秒	2012年11月 19日～2012 年12月28日	約400㎡	建物建設 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
長岡京跡 鶏冠井清水遺跡	都城跡 集落跡	長岡京期 鎌倉時代 ～室町時代	東三坊坊間東小路 西側溝、三条条間 北小路南側溝、土 坑 耕作溝		土師器、須恵器、土製 品、木製品 土師器、瓦器		長岡京跡の条坊路 を検出した。 東三坊坊間東小路 西側溝から、祭祀 遺物が出土した。	

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012-19

長岡京左京三条三坊十町跡・
鶏冠井清水遺跡

発行日 2013年3月31日

編集 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所
発行

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 TEL 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093 TEL 075-256-0961